

2014年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	兵藤 宗吉		
NAME	M u n e y o s h i H Y O D O		

1. 研究課題

(和文) 自伝的記憶における時代性と文化に関する認知心理学的研究

(英文) A study of autobiographical memory and culture.

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

認知心理学における記憶研究において自伝的記憶に関する研究は、この20年間にわたり高い関心を集めてきた。特に自伝的記憶の想起における感情の影響に関する研究は、重要である。これまでに、大学生を対象に「中学校時代」、「高校時代」といった時期に関する単語を手がかり語として自伝的記憶を想起させる一連の研究を重ねてきた。本研究では、時期ではなく「教師」、「友人」といったテーマを手がかり語として自伝的記憶の想起を求め、「感情価」、「イメージ度」、「懐かしさ」等について分析を行った。また、Conway(1996,2005)の自伝的記憶モデルの検証も同時に行った。Conwayのモデルの階層構造に注目し、「教師」と「中学校の教師」のようにテーマと時期を組み合わせることで検討したものである。実験結果から、これまでの多くの結果と同様に、「感情価」に関しては、全体的には、「快」な出来事が「不快」または「中立」の出来事より多く想起されることが明らかになった。ただし、テーマによっては、「快」、「不快」、「中立」間に差がないことも明らかにした。また、自伝的記憶想起の前後に多面的感情状態尺度をとり、感情制御に関しても検討を行った。結果から、不快感情における「抑うつ・不安」、「倦怠」が有意に低くなることが明らかになった。

(英文)

The purpose of this study is to explain the nature of autographical memory. Four experiences were effectuated for undergraduate students. The results indicated that positive events were recollected more than that of negative events and neutral events and Negative affect value was declined significantly after ten minutes recollection of autographical memory.